

# 「清流猪名川を取り戻そう町民運動」に対するパブリックコメントと町の考え方

## パブリックコメントと町の考え方

本町では、まちづくりを進めるにあたって、町の重要な計画などを立案する際に、情報を公開して住民の皆さんの意見を募集し、検討結果を公表する「パブリックコメント制度」を導入しています。

今回、その第6回目として「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画」について、平成17年6月1日から30日までの間、その素案を公表し、皆さんの意見を募集しました。その結果、下表のとおり8件のご意見をいただきました。いただいたご意見と、これに対する町の考え方（概要）をお知らせします。

### パブリックコメント実施結果

学校・PTAの協力は？	
<b>意見</b> 推進体制に記載されている各種団体・地縁として自治会が例示されていますが、学校あるいはPTAなどの取り込みも必要であると思えます。	<b>町の考え方</b> 各種団体の中にPTAも含まれていると考えております。ご意見のとおり、学校はもとよりPTAの協力も得ながら運動に取り組んでいきたいと考えています。
自発的な活動とするのか？	
<b>意見</b> 各種団体からの自発的な活動への参加を待つのか、ある程度初期においては動員をかける予定なのか、行政の関与の程度が曖昧であると感じました。	<b>町の考え方</b> 基本的には、自発的な活動への参加としますが、「おもい」を同じくする団体等への参加の呼びかけも適宜していきたいと考えています。
専門的な知識が必要	
<b>意見</b> 河川環境の改善、工法の検討など、かなり専門的な知識が必要であると思われ、コーディネーターとしての町職員の指導、あるいは学識経験者の招聘が必要であると思われ。	<b>町の考え方</b> 協議内容や検討課題によっては、その分野の専門家の派遣を県等関係機関に要請していきたいと考えています。
部会の位置付けは？	
<b>意見</b> 「部会」は実行委員会としての性格付けなのか、活動部隊であるのか、住民が広く参加する場であるのかよく分かりません。	<b>町の考え方</b> 「部会」は住民、各種団体、事業者、行政が連携して広く参加する場です。運動の目的別に設置された4つの部会において、各主体が意見交換を図りながら活動し、運動の推進を図ります。
「町民運動」の仕掛けが必要	
<b>意見</b> 関心の高い人たちだけの会議となつては、「町民運動」としての実を挙げ得ないと思われるので、何か別の仕掛けが必要と思えます。	<b>町の考え方</b> 運動を展開していく中で、関心の低い人たちにも河川愛護の意識を持っていただくなど、運動への参加意欲を醸成させていくような施策についても検討していきたいと考えています。
「町民運動」と銘打つ意義	
<b>意見</b> 重点運動としていくつかあげられていますが、押しなべて行政がやること、やらなければならないと感じることが列挙されています。町民運動と銘打つ意義が今ひとつ明確でないように思えます。	<b>町の考え方</b> 基本計画(素案)は、ワーキングチームによってまとめられたもので、その構成員には町職員だけでなく、座長に県立人と自然の博物館研究員をはじめ、各方面で活躍されている一般の方々にも参加していただきました。運動(施策)の中には、公共事業で実施するものも含め各々が取り組むべきこと、また連携して行う必要があるものなどを計画しており、共に考え共に行うという参画と協働の観点から町民運動として意義付けされたものと考えています。
「運動のねらい」と「運動の内容」が同じでは？	
<b>意見</b> 「運動のねらい」と「運動の内容」の記載内容がダブっており、同じことを言い換えているだけのような箇所が多く気になりました。	<b>町の考え方</b> 「運動のねらい」と「運動の内容」は全く異質のものではないため、記載内容において重複する部分がありますが、それぞれの運動の意図するところを違和感なく伝わるように記載したものです。
全 体	
<b>意見</b> 町民運動であるからには、いかに多くの住民参加を促せるかが成否の基準でしょうから、早速小中学校の夏休みの宿題に取り入れるとか、のど自慢の取材ついでにNHKで猪名川の特集をしてみようとか、思い切ったキックオフイベントも必要ではないかと思えます。	<b>町の考え方</b> 町民運動について町内だけではなく国内各地からの参加者に向けてアピールしたいと考えています。また、サミット開催を告知するうえでラジオ等のマスコミで取り組みを紹介することが一つの成果であると考えます。今後の運動の中で、一人でも多くの住民に参加していただけるよう、その方策について検討を重ねていきたいと考えています。

8項目にわたって貴重なご意見をいただきました。ご意見に対し、清流猪名川を取り戻そう町民運動本部会議での協議の結果、多くの項目において既に素案の内容に含まれているものもあり、より積極的な意見につきましては、今後の活動の中で発展的に協議・検討していきけるものと考えます。

## 21世紀の主役たち

### 柏原生産森林組合



7月10日のあじさいまつりに参加した真田町長と盛況を喜ぶ皆さん

今年も7月に、大野山で「あじさいまつり」が開催されました。あじさいは、地元柏原生産森林組合や自治会などが、山頂の斜面一体に1万5千株の苗木を植栽し、観光の名所にと取り組んだのがはじまりです。今や、町の観光スポットの一つです。

町長 「あじさいまつり」も10年目、今年も、きれいに咲き誇りましたね。

組合長 約20年前から、先輩達が年々植栽されてきたものです。剪定などで失敗した時もありましたが、今は、どこにも勝る山だと自負しています。

町長 地域が一丸となって取り組まれてきたことが、今に至っているんですね。

組合長 地元はもちろんです。特に森林ボランティアには、岩めぐりなど埋もれていた資源の発掘を手がけていただき、大野山の観光や魅力がさらにアップしました。

組合役員 山頂へは、車でも来ていただける

### 大野山の魅力を発信

組合長 「森が枯れると水が枯れる、水が枯れると人が枯れる」といいます。森を守る

ことが、私たちの責務だと思います。最近、ごみを持ち帰る人も増え、マナーも良くなりました。

町長 大野山の風景は、日々変化します。耳をすませると鳥のさえずりが聞こえ、心も癒されます。町としても、大野山を観光資源とし、付加価値をつけたいと思っています。維持・管理は大変ですが、頑張ってください。

ので、高齢者にもご覧いただけます。組合長 天文台ができたことで、天文ファンも来られるようになりました。

町長 この素晴らしい自然資源は、本町の宝物と捉えています。

組合役員 健康ブームで、山に親しむ方が増えました。山頂からの眺望は、心身ともに落ち着きます。登山客の喜びが、大野山を管理する我々地元住民の支えにもなります。

### 猪名川町B & G海洋センター

## 入館者30万人達成

7月20日、オープンから4年目を迎えたB & G海洋センターが入館者30万人を突破しました。

施設内には、子どもから大人まで楽しめるよう、25m(7コース)プール、長さ5mのすべり台が楽しめる幼児用プール、気泡で体をもみほぐすジャグジーや多目的室、交流プラザなど充実した設備が整っています。

今回、30万人目の入館者は、川西市丸山台在住の佐藤美紀さんと宗一郎くん親子。佐藤さんには、真田町長から利用料10,000円分のプリペイドカードと町制施行50周年記念DVDが贈られました。



さしかした もな 阪下 桃菜ちゃん 1歳1カ月(つつじが丘)



いつも大好きなお姉ちゃんの後ばかりくっついて、遊んでいる桃菜ちゃん。いつまでも仲よし姉妹でいてね。父 良・母 朋子さん

まつだ たいせい 松田 泰征くん 1歳2カ月(島)



毎日「あーまたやったな！」の連続、でも今はそれでいいんだよ。優しく元気な泰征くんがいてね。父 康夫・母 里衣子さん

## はい！ポーズ



### 「一無、二少、三多」で良い健康習慣を

#### 医療法人 晴風園 杉生診療所 藤永逸 所長

この標語は「日本生活習慣病予防協会」が提唱している健康習慣のためのものです。「一無」は無煙(禁煙)の励行、「二少」は「少食」(腹八分目)と「少酒」(日本酒で一合など)そして「三多」は多動、多休、多接です。「多動」は運動のすすめで、歩行、体操、筋力トレーニングなどの運動を日常化することです。腰や膝の痛みのために積極的に運動ができない場合は、できるだけ家の中

で動く工夫が大切です。「多休」は質の良い休養(睡眠)を確保すること、そして「多接」は多くの人・事・物に接すること、すなわち家族や友人との会話を楽しみ、趣味をはぐくみ、色々の社会活動に参加して精神の健康に結び付けて行くことです。

平成15年9月現在の日本における「百寿者」の数は25,000人ですが、これら「百寿者」が70~80歳の頃にどのようなことに気をつけて生活をしてきたかという調査をしたところ、食事に気をつける(腹八分目、緑黄野菜と肉・魚)、適度な運動をする(日常生活の中で体を動かす、歩く)、十分な睡眠と休養をとる、物事にこだわらない生活、ゆとりのある生活をする(くよくよしない、いらいらしない)が上位を占めました。皆さん、健康長寿をめざし、できるだけ介護を受ける時間を短くするために、よい健康習慣を身につけるよう努力しましょう。